

幼小中つながる通信 vol.86

発行：令和3年3月8日 袋井市教育委員会

学習用タブレットをフル活用 ～周南たちはな学園三川小学校～



学習用タブレットを片手に自分の考えを伝える

昨年末、本市の小中学校には、県内でいち早く1人1台の学習用タブレットが使用できる環境が整いました。このほど学習用タブレットを活用した授業を市長はじめ、市の幹部やマスコミに公開しました。

場面に応じてタブレットを使う

三川小学校では、全ての学年で、日常的に学習用タブレットを使っています。自分の考えを整理し、表現し、周りの仲間と共有したいときなど、適切な場面で使うことにより、友達との考えを共有しやすくなり、自分自身の考えが深まります。

神田校長先生も、「子どもたち自らが、場面に応じて ICT を使いこなせる力を身に付けてほしい。3 学期から使えるようになった袋井市の強みを生かしていきたい。」と意気込みを話してくれました。

新しい授業で未来を育てる

変化が激しい、これからの時代を生き抜くためには、必要な情報を自ら選び取り、その情報を上手く活用していく力が何よりも重要です。

1人1台の学習用タブレットを学校教育の場で効果的に活用していくことにより、未来を生きる子ども達に必要な「生きる力」を育てていきます。

学習用タブレットの活用



校長から活用の様子を聞く原田市長(右)



思考ツールで整理した考えを共有する

